

化学でもっといいこと。



ダイソー株式会社

決算説明会資料

2011年6月7日



I. 2011.3期ハイライト

II. 2011.3期業績

III. 2012.3期業績予想

IV. 新中期経営計画

V. 研究開発

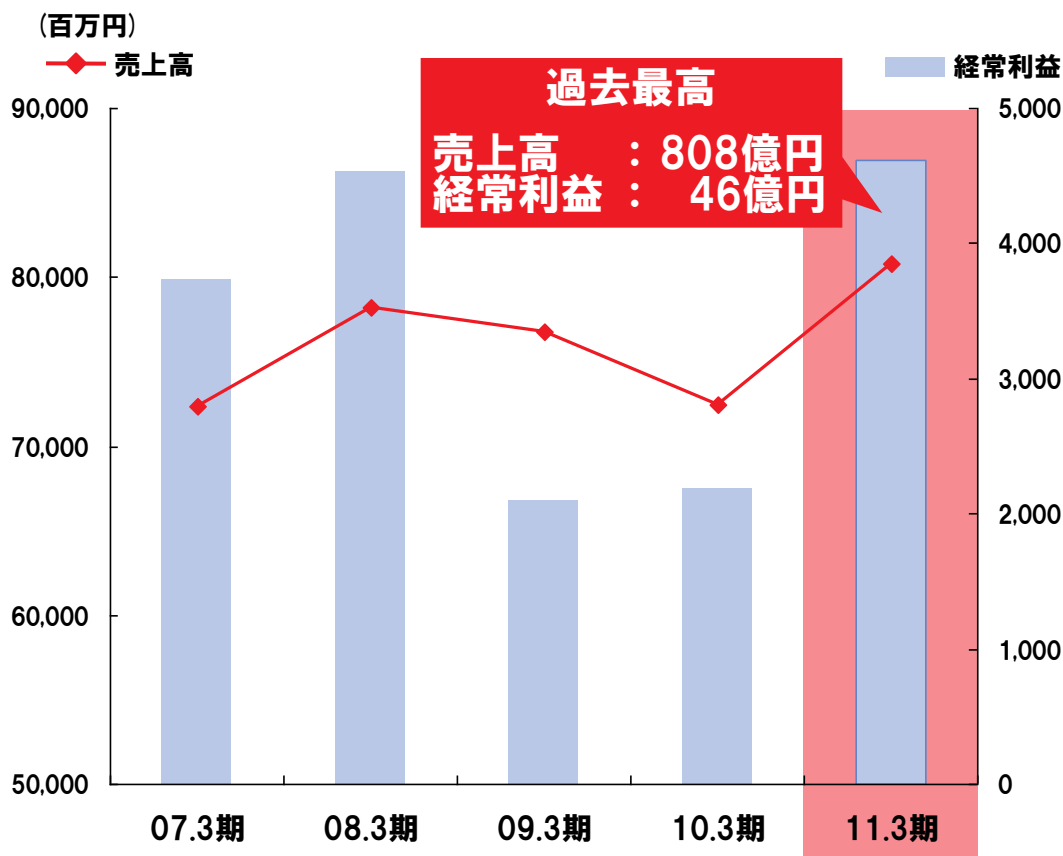


I. 2011.3期ハイライト

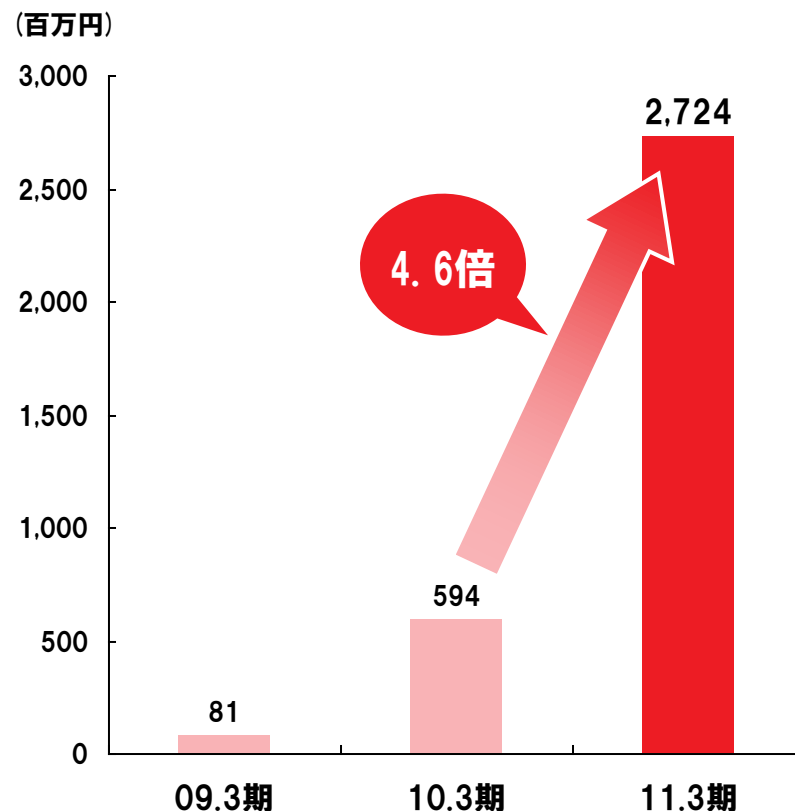
2011.3期の業績はV字回復し過去最高へ

売上高 **2桁増**、**経常利益倍増**となり、過去最高を達成
記念配当（創立95周年）1円で**7円に増配**

業績の推移



機能化学品の経常利益



機能化学品事業の躍進

第一次中期経営計画から取り組んだ、機能化学品の強化が奏功
コモディティケミカルから、スペシャリティケミカルへ
営業利益に占める構成比は19%⇒47%に上昇

機能化学品の強化策

設備投資

グローバルマーケット
 の需要先取り投資
 (151億円)

M&A

- ・医薬品事業
- ・電極事業
- ・エピクロルヒドリン事業
- ・有機化学商社

新用途開発

- ・OA機器
- ・UVインキ
- ・水処理剤
- ・炭素繊維プラスチック

海外展開

- ・世界四極体制の確立
- ・現地法人、事務所設立
- ・アジア拠点強化

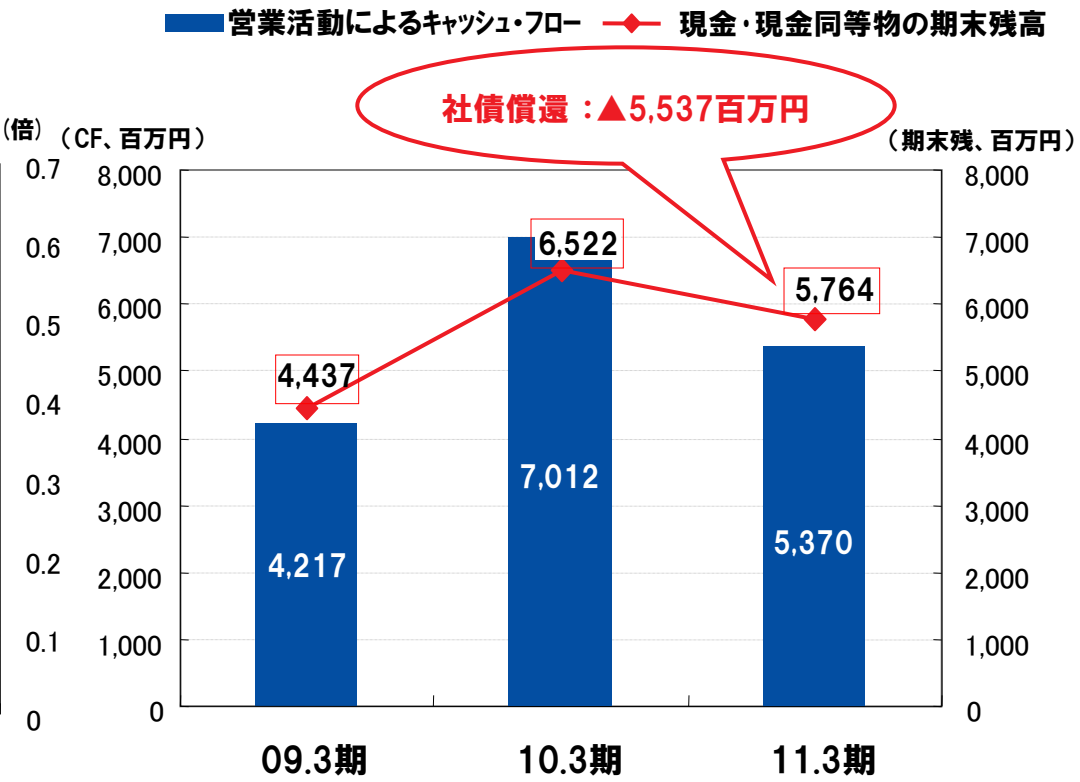
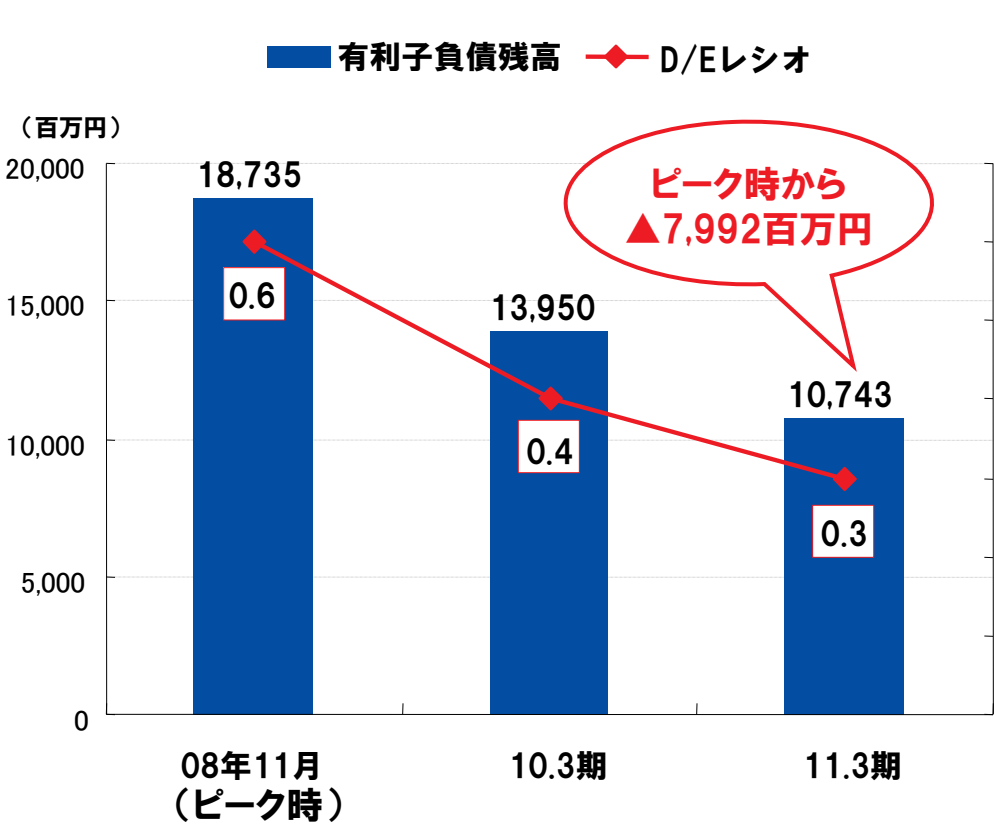
当期の成果

合成ゴム	非自動車分野であるOA機器用途がアジア・欧州で拡大
合成樹脂	電子材料用途で欧米中心に拡大
医薬品原薬・中間体	インフルエンザ薬の中間体、(株)食品バイオ研究センターのM&Aが寄与
電極	国内の鉄鋼需要の回復と海外のソーダ用電極の拡販
電子材料	台湾の液晶ディスプレイ用途が好調に推移

財務体質が強化され、新たな成長に向けた設備投資が可能に

◆ 有利子負債残高とD/Eレシオの推移

◆ キャッシュ・フローの推移



II. 2011.3期業績


 2011.3期概況

期初予想を大幅に上回る業績を達成
対前期比、売上高2桁増、利益倍増

(百万円)

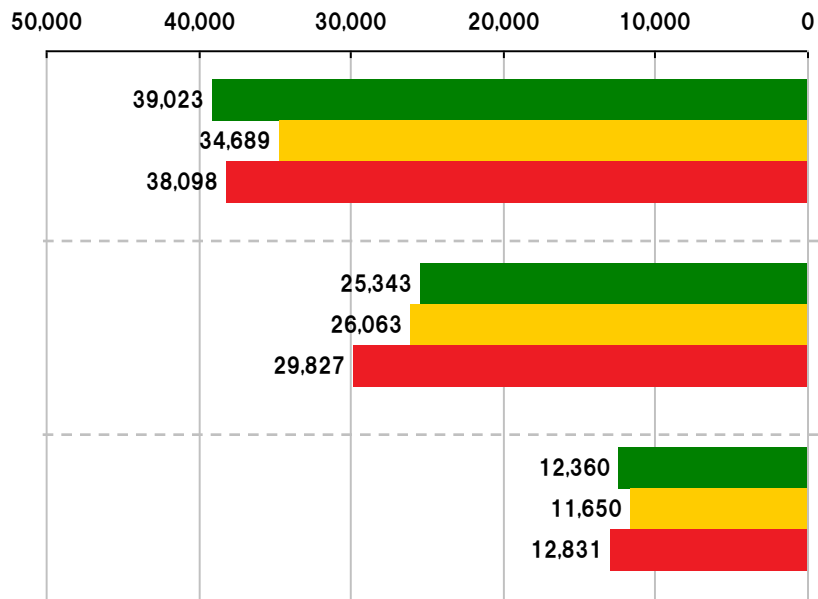
	10.3期	11.3期	増減率	増減	期初予想	達成率	増減	3Q修正
売上高	72,404	80,757	11.5%	8,353	77,000	4.9%	3,757	80,000
営業利益	2,188	4,470	2.0倍	2,282	4,100	9.0%	370	4,400
売上比 (%)	(3.0%)	(5.5%)			(5.3%)			(5.5%)
経常利益	2,185	4,618	2.1倍	2,433	4,300	7.4%	318	4,600
当期純利益	947	2,425	2.6倍	1,478	2,100	15.5%	325	2,400
一株利益(円)	8.6	22.5	2.6倍	13.9	19.4	16.0%	3.1	22.1

セグメント情報

付加価値の高い機能化学品の増収により大幅増益を達成

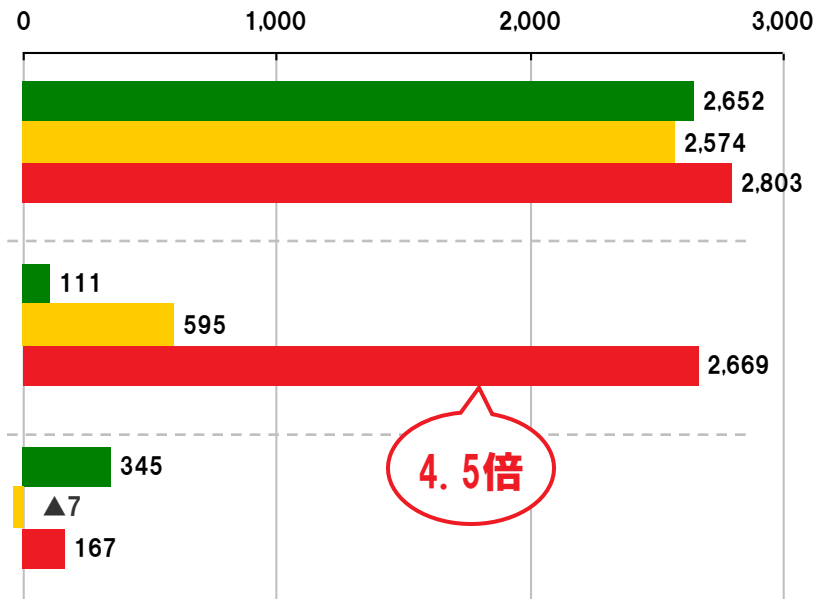
◆ セグメント別売上高

(百万円)



◆ セグメント別営業利益

(百万円)

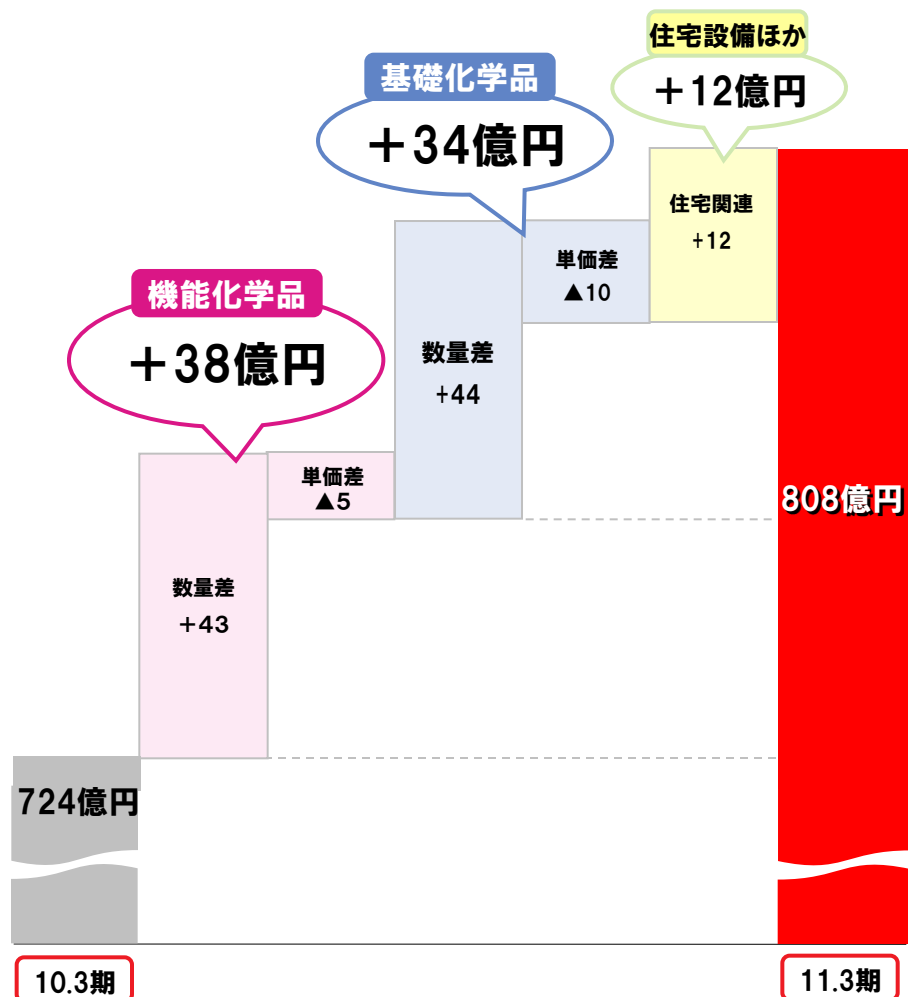


■ 09.3期 ■ 10.3期 ■ 11.3期

4.5倍

売上高分析

セグメント別要因分析



主要製品別増加分析

機能化学品

+38億円

製品	増加額
エピクロルヒドリンゴム	+6億円
医薬品原薬・中間体	+6億円
アリルエーテル	+5億円
電子材料	+4億円
電極	+3億円
省エネタイヤ改質剤	+2億円
ダップ樹脂	+1億円
その他	+11億円

基礎化学品

+34億円

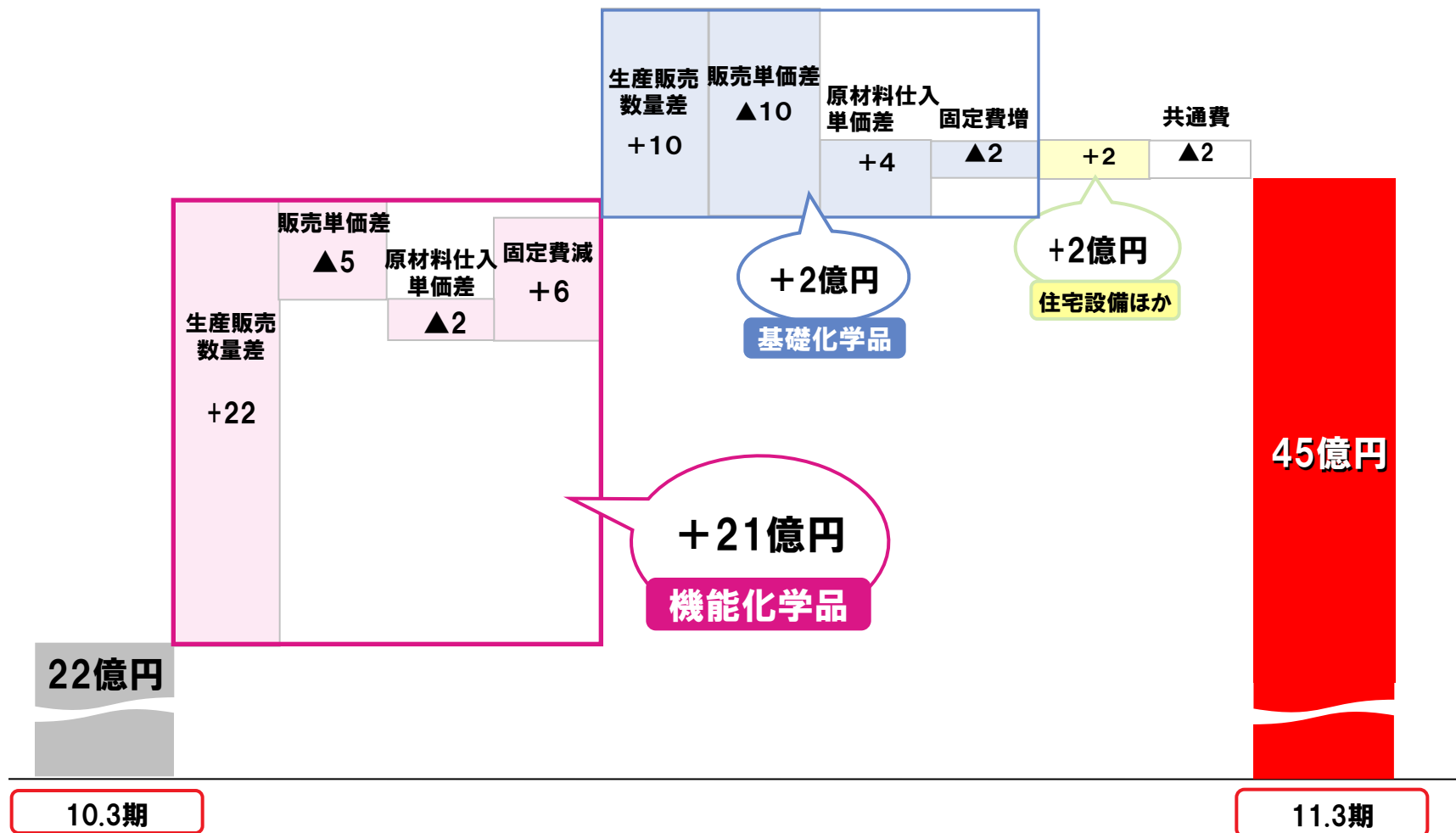
製品	増加額
エピクロルヒドリン	+22億円
クロール・アルカリ	+2億円
その他	+10億円

住宅設備ほか

+12億円

営業利益分析

機能化学品の生産・販売数量増と固定費減が寄与



財務体質が強化され、新たな成長に向けた設備投資が可能に

(百万円)

	09.3期	10.3期	11.3期	前期比
総資産	63,726	66,680	65,214	▲1,466
純資産	32,414	32,786	33,601	815
自己資本比率	50.8%	49.1%	51.4%	—
一株当たり純資産	291.65円	301.75円	318.11円	16.36円
有利子負債	16,070	13,950	10,743	▲3,207
D/Eレシオ	0.5倍	0.4倍	0.3倍	—

	09.3期	10.3期	11.3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,217	7,012	5,370	▲1,642
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,290	▲1,510	▲1,312	198
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲787	▲3,363	▲4,726	▲1,363
現金および現金同等物	4,437	6,522	5,764	▲758

Ⅲ. 2012.3期業績予想

当社を取り巻く事業環境

今期の事業環境

国内	<ul style="list-style-type: none"> ・大震災の影響: サプライチェーンの混乱、電力不足、消費マインドの低下など ・原燃料価格の高騰 ・円高の進行
海外	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国の経済成長の持続 但し、インフレ懸念による減速、大震災の影響の波及

当社への影響

基礎化学品	大震災による需給タイト化を受け、西日本への生産依存度が増す
機能化学品	海外中心でシェアの高い製品のため、全体的には影響は軽微

当社の方針

- ・復興支援に向けたエピクロルヒドリンなどの基礎化学品の増産
- ・機能化学品も誘導製品(合成ゴム・合成樹脂)を中心に増産
- ・医薬品原薬・中間体、電極事業の一段の拡大



2012.3期の業績予想

事業拡大がさらに加速。売上高、利益ともに過去最高を見込む

(百万円)

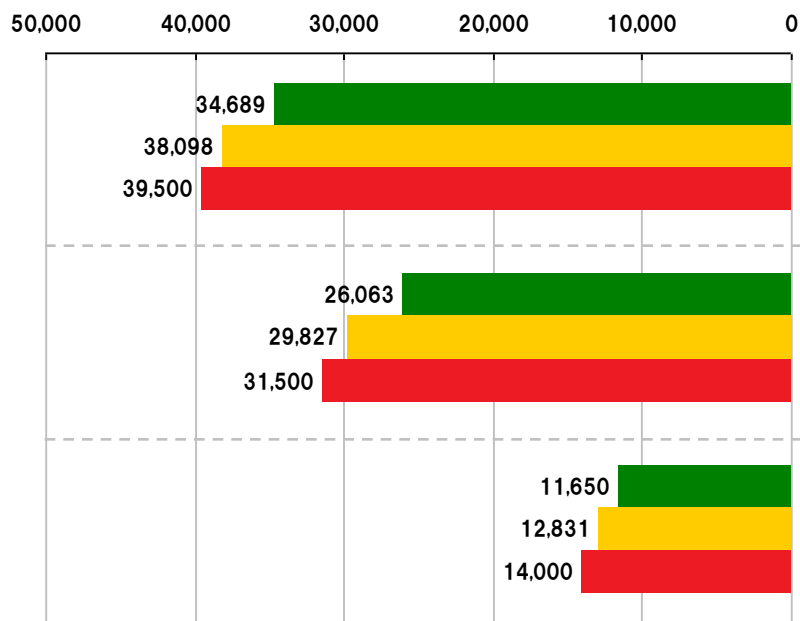
	11.3期	12.3期予想	増減率	増減額
売上高	80,757	85,000	5.3%	4,243
営業利益	4,470	5,100	14.1%	630
売上比 (%)	5.5%	6.0%	—	0.5%
経常利益	4,618	5,300	14.8%	682
当期純利益	2,425	2,700	11.3%	275
一株利益	22.5円	25.6円	—	—
一株配当	7円	7円	—	—
配当性向	31.2%	27.3%	—	—
	11.3期	12.3期予想	増減率	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,370	5,500	—	130
有利子負債	10,743	10,048	—	▲695

セグメント情報

基礎化学品	増収増益基調。コストダウン効果で利益率は前期を上回る
機能化学品	新興国市場の成長持続により増収増益を見込む
住宅設備ほか	技術力、企画力を活かした商品開発を推進

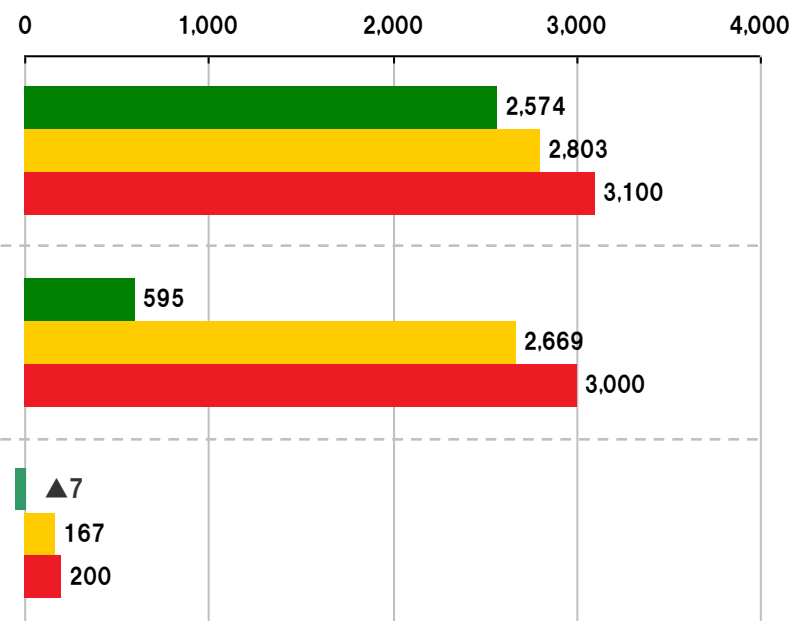
◆ セグメント別売上高

(百万円)



◆ セグメント別営業利益

(百万円)

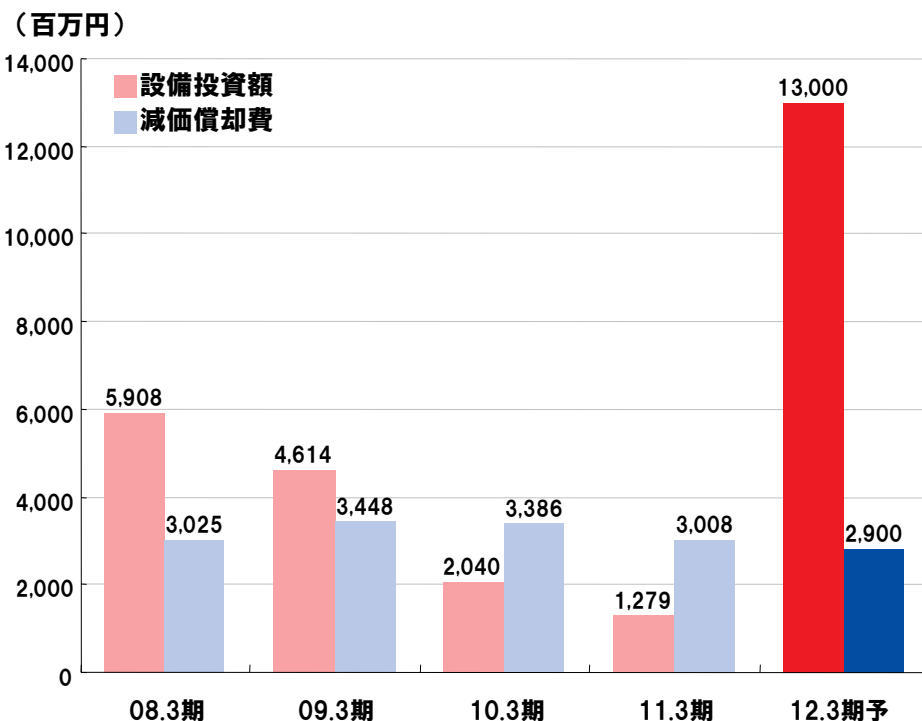


■ 10.3期
 ■ 11.3期
 ■ 12.3期予

設備投資、減価償却および研究開発

設備投資(着工ベースで約130億円を計画)

- ・アリルクロライド・エピクロロヒドリン増設
- ・アリエーテル増設
- ・医薬品原薬増設
- ・コストダウン投資

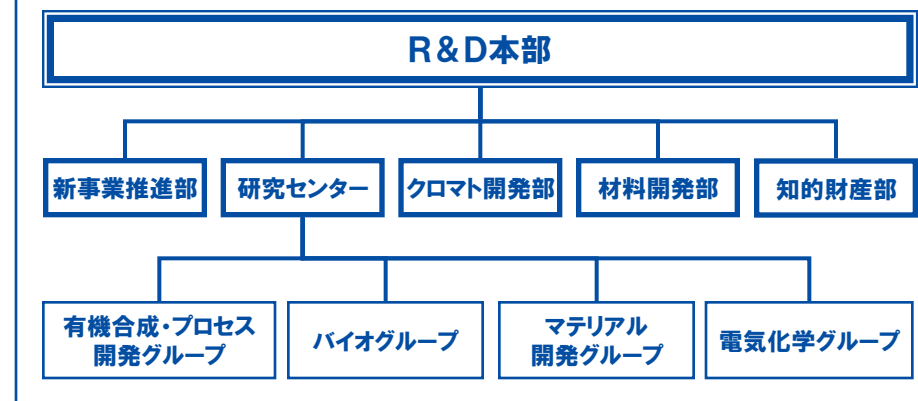


研究開発

【注力3分野に重点配分】

エネルギー・環境	蓄電デバイス部材など
電子材料	機能性フィルム素材など
ライフサイエンス	バイオ医薬関連に注力

◆ 研究開発体制



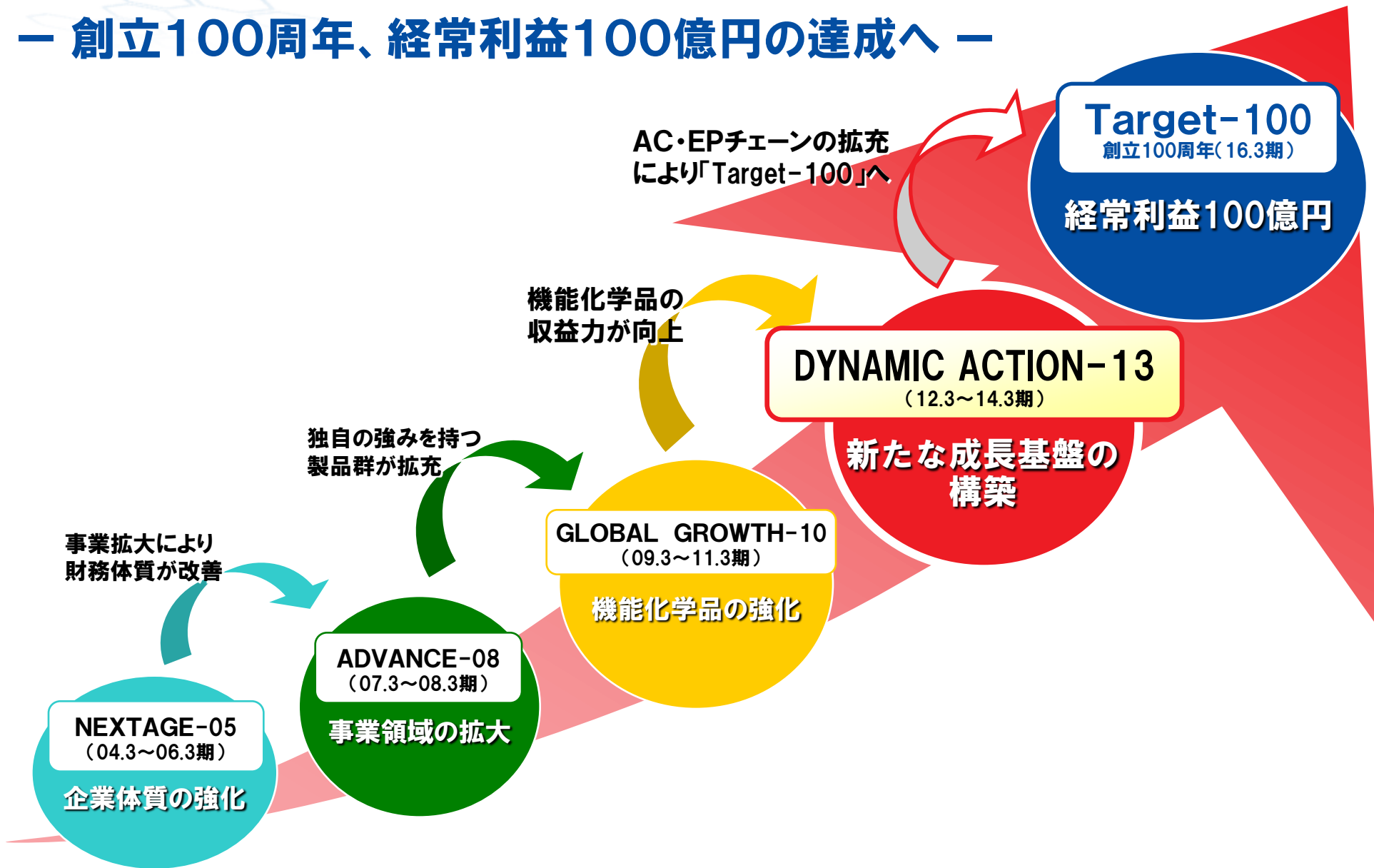
IV. 新中期経営計画

DYNAMIC ACTION-13

- 躍進、革新、挑戦 -

長期経営目標「Target-100」に向けた事業計画

— 創立100周年、経常利益100億円の達成へ —



「GLOBAL GROWTH-10」までの8年間の実績

2003年度から「Target-100」を目指し、**事業構造の変革と拡大強化**に取り組む

投資

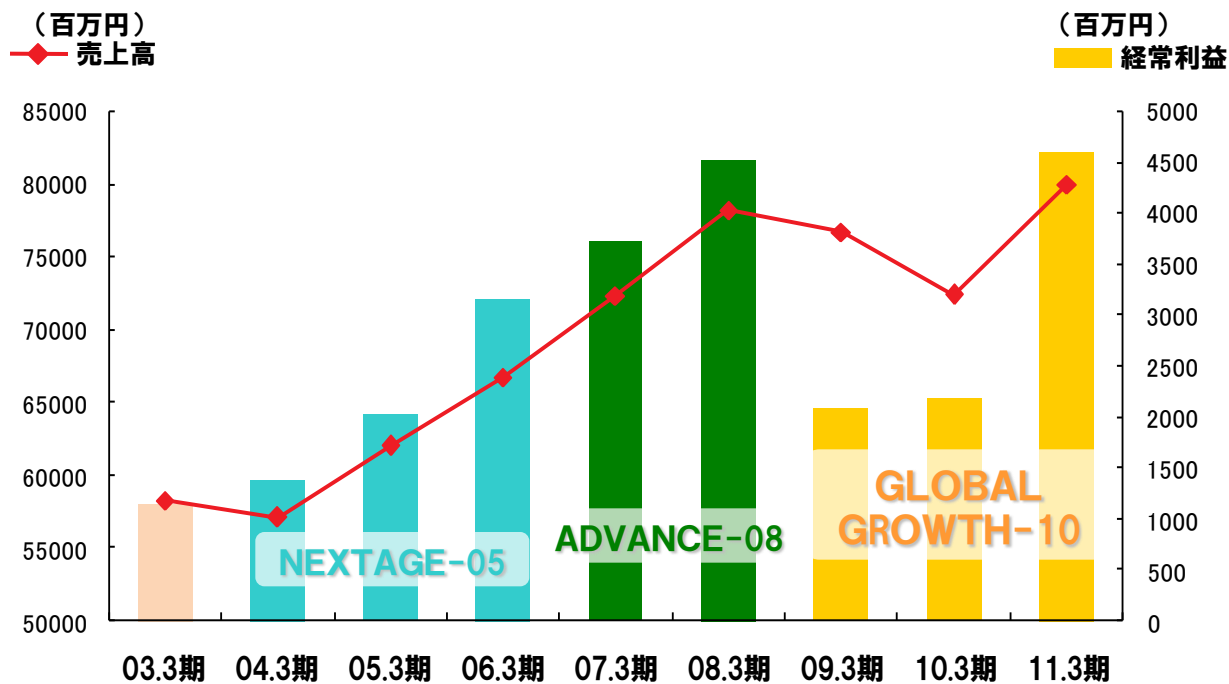
- ・機能化学品への積極的投資
- ・M&Aの推進(8件実施)
- ・プロセス改善による生産効率向上
- ・損益分岐点の大幅な引き下げ

営業

- ・海外ネットワーク拡充
- ・電極事業の子会社への譲渡
- ・医薬品事業の子会社への譲渡

組織

- ・執行役員制度の導入
- ・営業本部制の導入
- ・R&D本部への組織改革
- ・人財開発部の新設



	(百万円)		
	03.3期	11.3期	増減率
売上高	58,278	80,757	40%
経常利益	1,149	4,618	4.0倍
経常利益率	2.0%	5.7%	3.7%
ROA	2.4%	7.0%	4.6%
ROE	0.6%	7.3%	6.7%
設備投資 (含M&A)	300億円		

積極的な投資による事業の拡大強化

機能化学品を中心に8年間で**300億円**を投資
 M & Aにより事業領域が拡大し、マーケットシェアも上昇

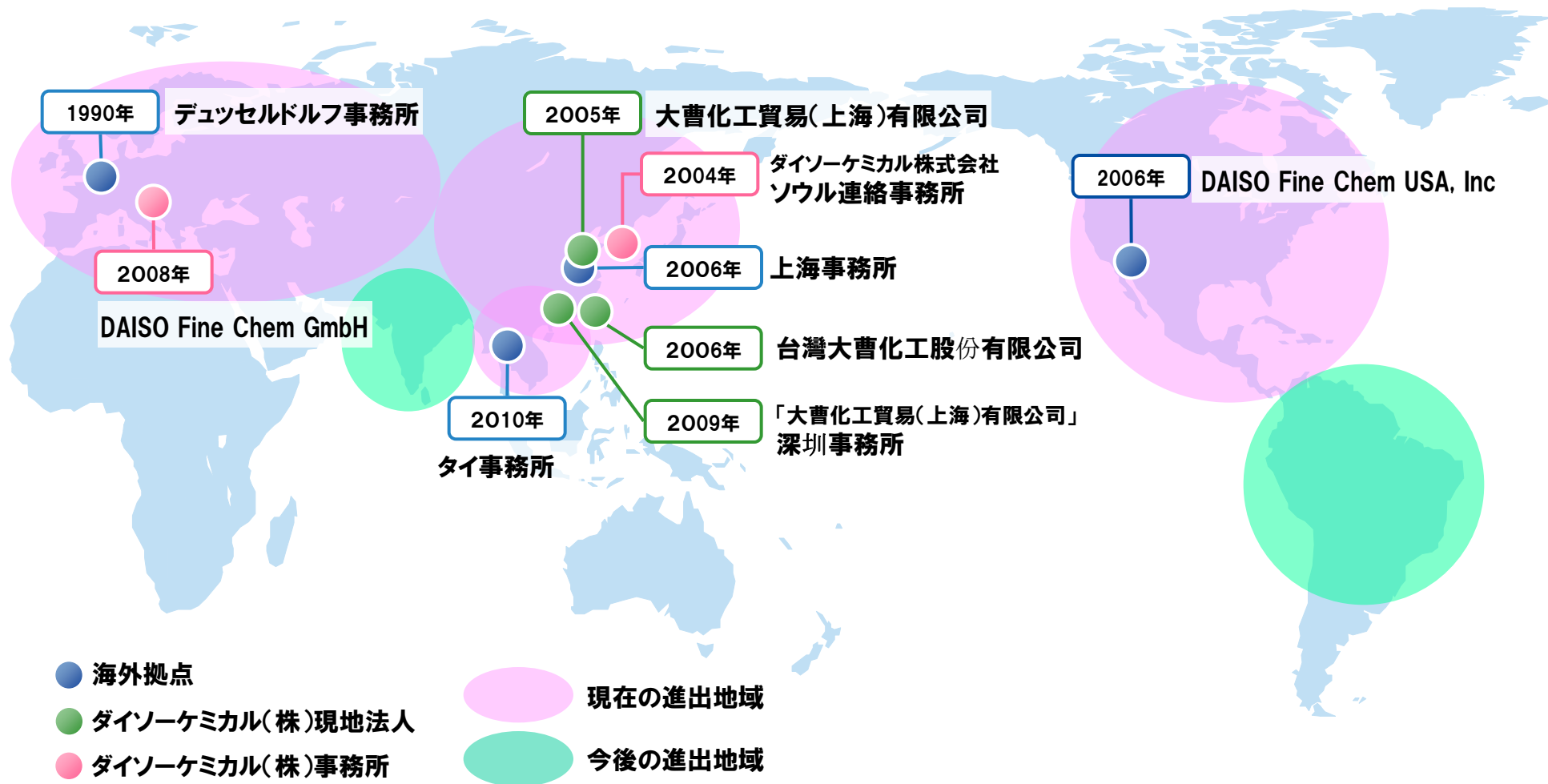
	生産能力	売上高
□ コア事業		
エピクロルヒドリン	1.1倍	2.3倍
クロール・アルカリ	1.1倍	1.4倍
アリルエーテル	2.9倍	3.0倍
エピクロルヒドリンゴム	1.5倍	1.9倍
ダップ樹脂	1.7倍	1.9倍
シリカゲル	2.0倍	2.3倍
省エネタイヤ用改質剤	1.7倍	3.0倍
□ 次世代事業		
医薬品原薬・中間体	3.0倍	4.2倍
電極	2.4倍	2.0倍

*2002年度比

M & A、事業譲受など	
□ 事業の拡大強化	
2002年	蝶理ケミカル(現ダイソーケミカル)を買収
	TDKから民生用電極事業譲受
2003年	昭和電工からエピクロルヒドリン営業権譲受
2006年	米国ELS社を買収(シリカゲル)
2008年	サンヨーファインを買収(医薬品受託合成)
2009年	山白屋を買収(保険代理店事業)
2010年	食品バイオ研究センターを買収(バイオ医薬品)
□ 事業の撤退	
2007年	塩素化ポリエチレン事業譲渡
2012年	化粧板生産事業から撤退(予定)

海外ネットワークの構築

グローバル展開に向けて海外拠点を拡充



「DYNAMIC ACTION-13」-躍進、革新、挑戦-

基本目標

	売上高	経常利益	ROA	新製品売上高比率	海外売上高比率
14.3期	1,100億円	80億円	9%	10%	25%
11.3期	(808億円)	(46億円)	(7%)	(5%)	(15%)

行動指針（3つのC）

CHALLENGE

チャレンジ精神で
あらゆる困難を打破する

CREATE

想像力を発揮し
新たな事業領域を切り拓く

COMPETE

競争力の高い製品で
グローバル競争に打ち克つ



基本方針

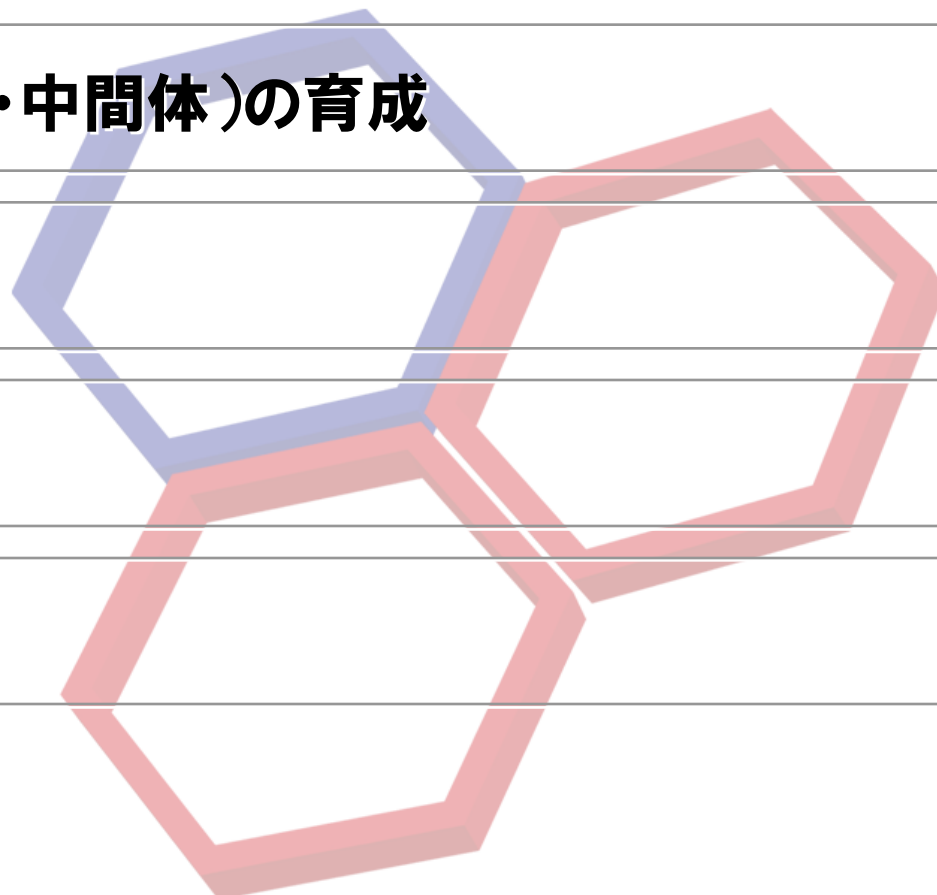
1. コア事業(基礎化学品、機能化学品)の強化

2. 次世代事業(電極、医薬品原薬・中間体)の育成

3. 新規事業の創出

4. グローバル戦略の推進

5. コーポレート戦略の推進



最重点施策

売上高1000億円の化学会社へ

「Target-100」に向けて、当社グループの基盤事業であるAC・EP事業を強化

AC(アリルクロライド)・EP(エピクロルヒドリン)チェーンの強化

AC・EPの増設

EP 「60,000t/年」



「80,000t/年」体制へ
(投資額：80億円)

AC・EP誘導体の増加

海外市場での拡大基調続く

世界1位	アリルエーテル	半導体、プリント基板、高級塗料
世界2位	エピクロルヒドリンゴム	自動車、OA機器
世界1位	ダップ樹脂	UVインキ、ホットスタンピング

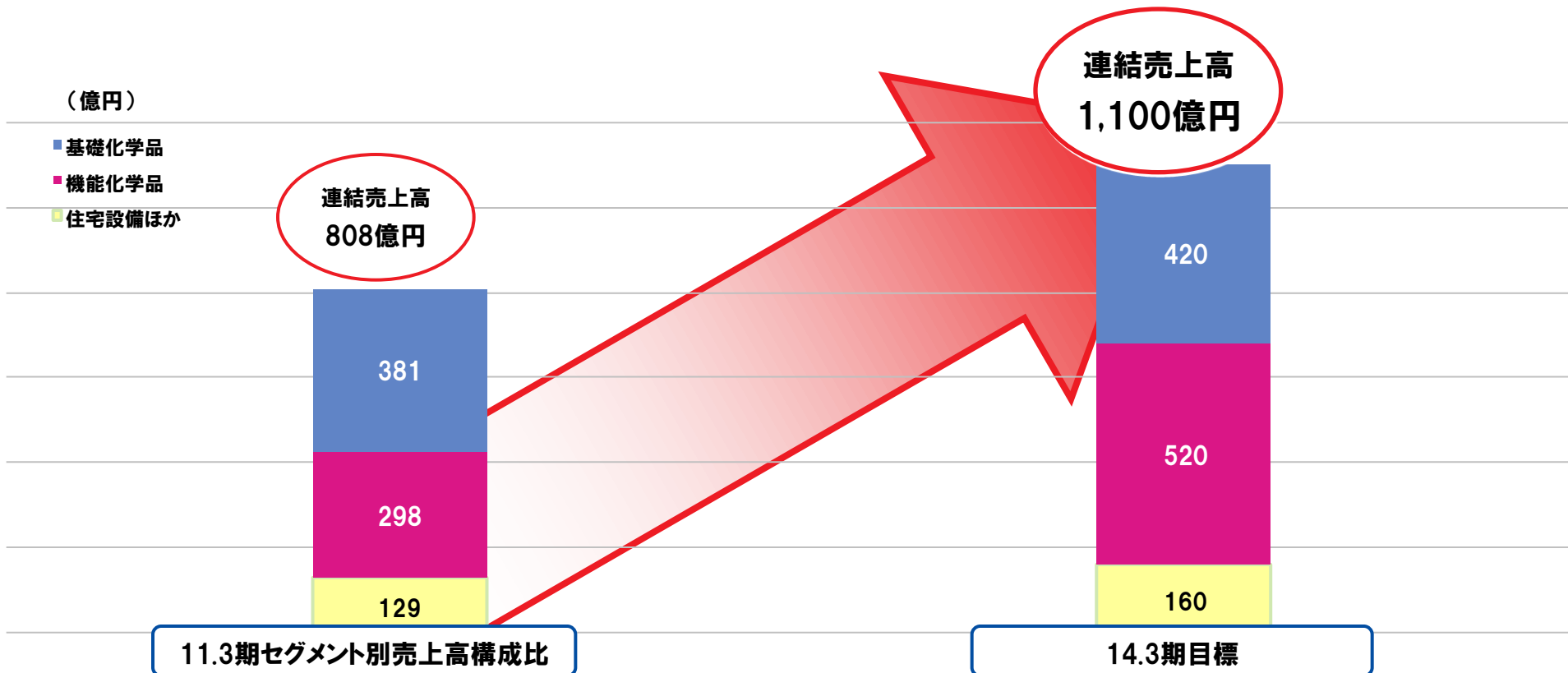
震災復興への支援として緊急増産をスタート：
2011年度、松山・水島工場で合計8,000t/年

高機能プラスチックであるエポキシ樹脂の国内外での需要拡大に対応

〈主要用途〉	電子材料	半導体、プリント基板	接着剤	道路工事、ビル建築、橋脚耐震工事
	金属塗料	自動車、船舶、橋梁	炭素繊維強化プラスチック	自動車、航空機の軽量化、風力発電ブレード

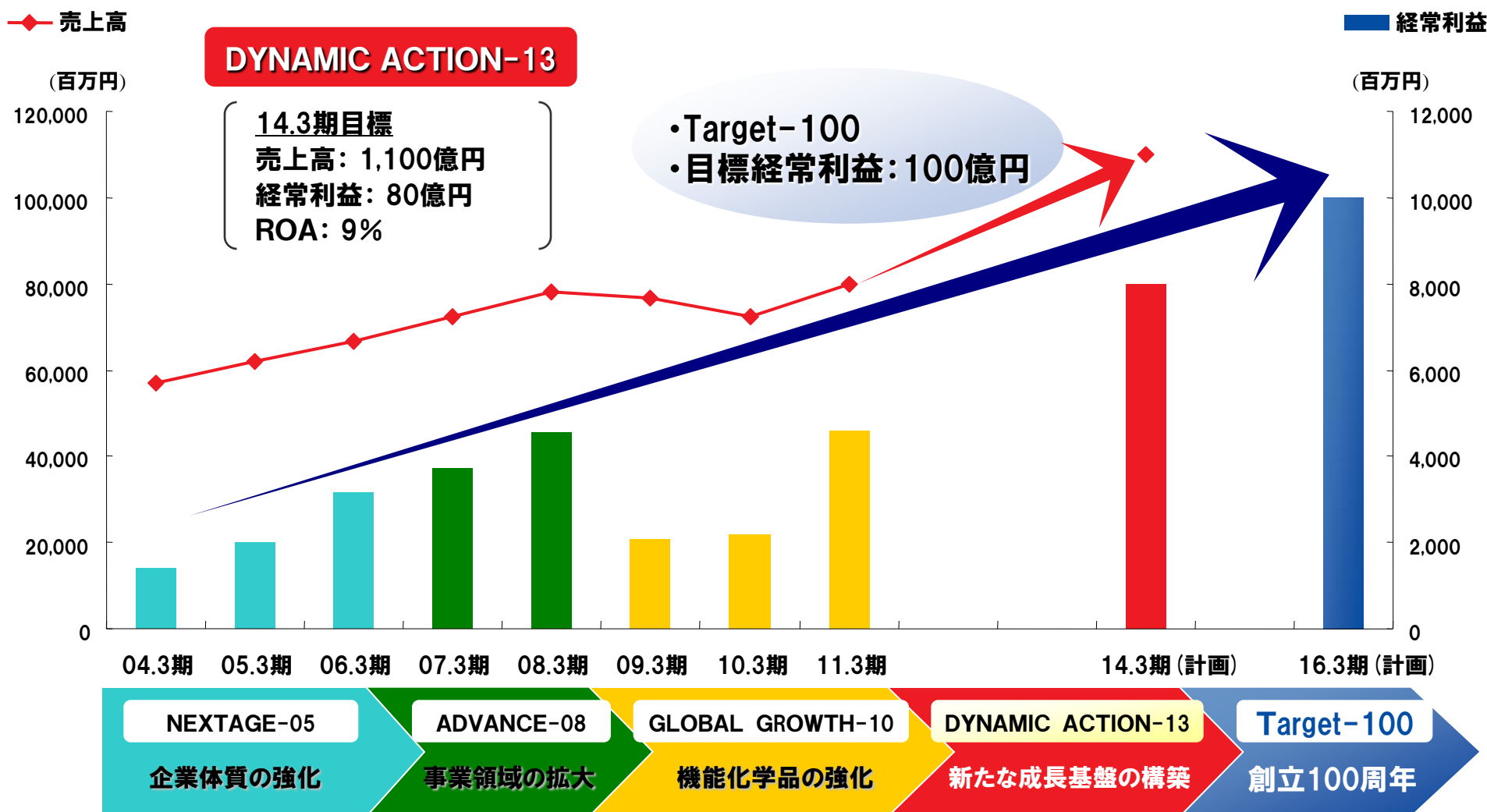
300億円の積極投資

		投資計画
基礎化学品	AC・EPの設備増強、クロール・アルカリの増強など	120億円
機能化学品	アリルエーテル、ダツプ樹脂、シリカゲルなど	60億円
次世代事業	医薬品原薬・中間体は原薬設備増強 / 電極は海外での生産拠点	25億円
コストダウン	生産、購買、物流における革新的な技術や設備の導入	40億円
M&A、新規事業ほか	事業の競争力強化・川下展開、新技術の獲得、海外売上高の拡大、「電子材料」「エネルギー・環境」「ライフサイエンス」、情報インフラ整備など	55億円



「DYNAMIC ACTION-13」のまとめ

「Target-100」に向けた新たな成長基盤を構築する

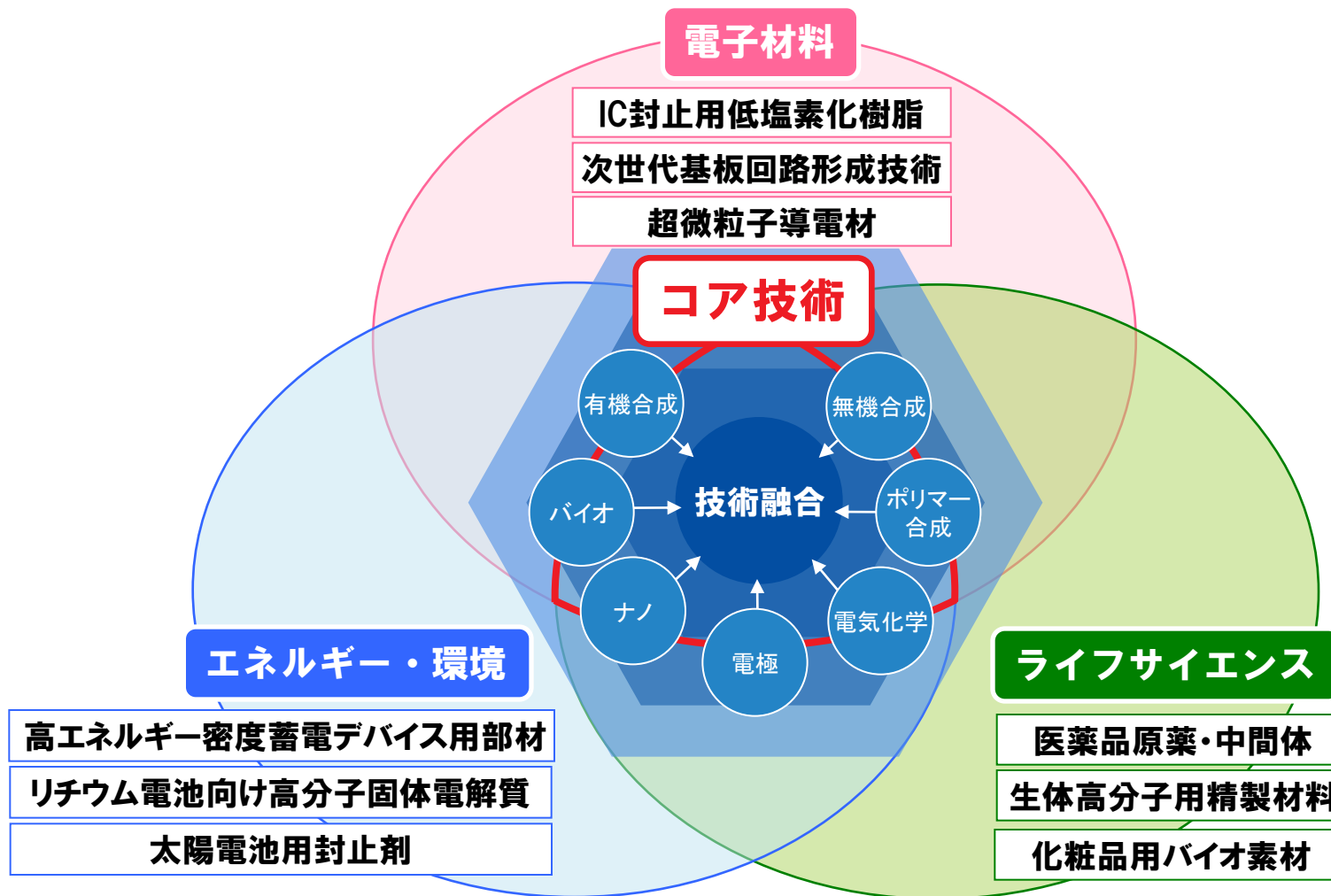


V. 研究開発

3つの成長分野に注力

成長ドライバーの開発と事業化

上市を優先したマーケットイン型の研究開発により、新事業創出をスピードアップ



サンヨーファイン：新規大型製品の開発が順調に進展

食品バイオ研究センターの合併によるバイオ技術の強化

- ・インフルエンザ治療薬の原料**シアル酸**の酵素を用いる大量生産技術を取得
⇒松山工場、大型医薬中間体設備を活用して一貫生産体制を構築
- ・遺伝子組換え技術の応用による**糖および糖鎖**合成技術を取得
⇒成長著しいバイオ医薬品分野への積極的展開



新製品を相次いで上市

- ・得意とするバイオ技術や有機合成技術を活用し、
抗菌薬、抗アレルギー薬、制癌剤など7つの大型受託案件が進行中
- ・2011年から大型医薬品中間体(**消化性潰瘍治療薬中間体**)の受託生産・販売を開始

医薬品原薬製造にも注力

- ・松山工場にGMP対応医薬品原薬製造設備を増設(2011年11月完成)
- ・2012年から医薬品原薬(**骨粗鬆症治療薬**)の受託生産・販売を開始

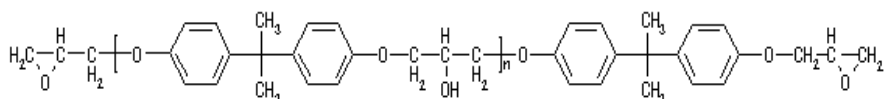
電子材料：低塩素エポキシ樹脂の開発

封止材用途でビスフェノールFタイプの 高純度、低塩素エポキシ樹脂を開発

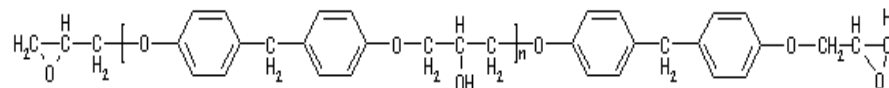
特徴

加水分解性塩素含有量、全塩素含有量が極めて低い高純度な液状エポキシ樹脂であり、高度な信頼性が要求される電子材料用に開発

◆ ビスフェノールA型エポキシ樹脂(LX-01)



◆ ビスフェノールF型エポキシ樹脂(LX-02F)



銘柄	外観 @25℃	エポキシ当量 (g/eq)	粘度 (mPa・s)	色数 (ガートナー色数)	加水分解性塩素量 (ppm)	全塩素量 (ppm)
LX-01s	透明液体	170~190	5,000~10,000	<1	<5	<100
LX-02Fs	透明液体	160~180	2,000~5,000	<3	<10	<150

エネルギー・環境：太陽電池用封止剤の開発

太陽電池封止シート用の架橋剤を開発

高純度なアリル系架橋剤であり透明樹脂用の添加剤として開発

特徴

光透過率を下げず、

- ・耐熱性アップ
- ・機械的強度アップ
- ・耐久性・耐光性アップ
- ・難燃性アップ(耐ドロップ性)



各種透明樹脂の改質だけでなく、各種電子材料の原料、
ポリマーアロイの製造用助剤、各種ゴムの改質剤として展開予定

- ・本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- ・本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

お問合せ先

管理本部 管理部管理グループ

TEL : 06-6110-1570